

総合型地域スポーツクラブ「クラブレッツ」は会員のスポーツ生活をどう変えたのか

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/36031

総合型地域スポーツクラブ「クラブレッツ」は 会員のスポーツ生活をどう変えたのか

スポーツ科学過程 00-210 杉田 貴寛

I. 研究の動機および目的

スペインのあるスポーツクラブ「FC バルセロナ」がスポーツ雑誌に紹介されていた。こんなクラブが日本にもできたらいいのにと考えるようになった。

そんな時、日本で「総合型地域スポーツクラブ」が育成されていることを知った。「クラブづくりの4つのドア」によると、「この『総合型』とは、3つの多様性を包含していることをいいます。一つは種目の多様性、一つは世代や年代の多様性、そして、もう一つは技術レベルの多様性です」とされている。「FC バルセロナ」とは少し違うけれど、「総合型地域スポーツクラブ」ができたらいいなと考え興味を持った。

そこで、実際に石川県の河北郡宇ノ気町にある、総合型地域スポーツクラブ「クラブレッツ」を見学しに行った。そして、「クラブレッツ」会員が「クラブレッツ」が設立されたことでどのような変化があったと感じているのか、そして「クラブレッツ」は会員のスポーツ生活をどう変えたのだろうかという疑問を感じたのが本研究の動機である。

よって、研究の目的は、「クラブレッツ」ができたことでクラブ会員のスポーツ生活がどのように変わったのかを明らかにすることとした。

II. 研究の課題および方法

1. 研究の課題

「クラブレッツ」ができたことでクラブ会員のスポーツ生活がどのように変わったのかを明らかにするために次の3つの課題を設定した。

- 1) 総合型地域スポーツクラブ「クラブレッツ」が設立されたことによって、地域のスポーツ環境にどのような変化があったのかを明らかにする。
- 2) 実際、「クラブレッツ」の会員がスポーツ生活にどのような変化があったと感じているのか、地域にどのような変化があったと感じているのかを明らかにする。
- 3) 1)と2)の結果から総合型地域スポーツクラブが会員のスポーツ生活をどう変えたのかについて検討する。

2. 研究の方法

3つの研究の課題を解決するために、次のような研究方法で研究を行った。

1) 地域でのスポーツ環境の変化を明らかにするために

地域でのスポーツ環境の変化を明らかにするために、施設、プログラム、イベント、指導者、情報、クラブの6つに関して調査を行った。調査の方法は、これらに関する資料を入手し明らかにする方法をとった。また、資料のみでは分からなかった点については、適宜聞き取り調査を行った。

2) 会員の感じるスポーツ生活および地域の変化を明らかにするために

会員の感じるスポーツ生活および地域の変化を明らかにするために、質問紙調査を実施した。

3. 質問紙調査の概要

1) 調査期間

平成15年12月3日～平成15年12月23日

2) 調査対象

「クラブレッツ」で12月に活動を行っている、ジュニアを除く一般と高齢者の教室やセミナーの参加者に対して調査を行った。配布数は254部で回収数は229部(回収率90.2%)、有効回答数は202部(有効回答率79.5%)であった。

3) 調査内容

個人属性	スポーツライフの変化
「クラブレッツ」の情報とイベント	「クラブレッツ」と地域
クラブ観	スポーツ生活に求めるもの
会費および受講料について	クラブレッツへの要望

Ⅲ. クラブレッツの概要

1. 設立 平成 14 年 5 月 18 日
2. 目的 宇ノ気町を中心とする地域住民に対して運動・スポーツ活動と文化的活動の振興に関する事業を行い、会員の資質向上及び会員相互の親睦と交流を図り、会員のみならず子供たちをはじめ地域住民の健全な心身の育成に寄与すること。
3. 会員数 918 名（平成 15 年 8 月現在）
4. プログラム 定期的に活動を行っているものが 31 教室、10 セミナー
イベントが年に 5 つ
5. 会費 一般 3000 円 75 歳以上 2500 円 中学生以下 1500 円
6. 運営組織 クラブマネージャー 事務局員 2 名 理事会
5 部会（広報・指導者・マネジメント・教室・イベント）
7. 活動施設 宇ノ気町の公共スポーツ施設
湖北スポーツクラブ（ゴルフ練習場）など

Ⅳ. 地域のスポーツ環境の変化

1. 施設

「クラブレッツ」ができたことで、宇ノ気町に新たなスポーツ施設が建設されたわけではなく。「クラブレッツ」は、もともとあった公共のスポーツ施設を主に利用している。しかし今後、宇ノ気中学校の全面改築時に屋内運動場棟の 1 階に「クラブレッツ」のクラブハウスが併設される予定がある。施設の利用しやすさという面では、平成 15 年度から「クラブレッツ」が、勤労者体育センターの管理を一部委託され、「クラブレッツ」会員がスポーツ施設を利用しやすくなった。施設の利用者数を見ると、「クラブレッツ」の設立後、勤労者体育センター体育館、南部体育館、新化館など「クラブレッツ」の利用する一部の施設では利用者数が増加している。

2. スポーツプログラム

宇ノ気町の開くスポーツ教室数は減少傾向で、「クラブレッツ」設立時には 1 つしか開かれないようになっていた。宇ノ気町の「ほのぼの健康館」という施設では、5 つの自主健康グループが活動し、定期的に健康教室が開かれ、体力チェックや運動健康相談なども定期的に行われている。

「クラブレッツ」が開催するスポーツ教室、セミナー数は初年度の前期で 33 個、二年目の後期の現在で 41 個になっている。この約半数は「クラブレッツ」ができて新たにできたスポーツプログラムである。これらによって、宇ノ気町のスポーツプログラムは増加した。残りの約半数は、既存の団体（スポーツ少年団、単一種目のスポーツクラブなど）の活動を引き継いだもので、活動の内容は「クラブレッツ」設立以前とほとんど変わっていない。しかし、「クラブレッツ」の発行する「プログラム」で「する」スポーツの情報が増え、以前より町の人が参加しやすくなったと考えられる。

3. スポーツイベント

宇ノ気町では、町民運動会、町民歩け歩け大会、健康フェスティバル、宇ノ気町制施行記念耐寒継走大会、巡回スポーツ教室、白山登山などが行われていた。現在も以前と変わらず町民運動会、宇ノ気町制施行記念耐寒継走大会などは町が行っている。町民歩け歩け大会、健康フェスティバルなどは「クラブレッツ」との連携で一部行われるようになった。白山登山は町が行っていたものを、「クラブレッツ」が代わりに行うようになった。

「クラブレッツ」は、総会、教室発表会、スポーツまつり、親睦ボーリング大会、ふれあい交流よさこい祭りなど、さまざまなイベントを開催した。そのため宇ノ気町でのスポーツイベントは増加した。

4. 指導者

宇ノ気町の指導者数には、「クラブレッツ」の設立前後で大きな差は見られなかった。「クラブレッツ」は設立から現在まで 4 回、「クラブレッツ」の指導者に講習会を行った。また、今まで無償で指導をしていたスポーツ少年団などの指導者にも謝金を払うようにした。しかし、指導内容に今のところ大きな変化はない。

5. 情報

「する」スポーツに関する情報は、「クラブレッツ」が設立される以前には年に 1 度だけ行政によ

って発行されていたが、現在は発行されなくなった。町民のスポーツでの活躍は、毎月発行される官報に2月に1度程度掲載されていた。これは、現在も変わっていない。

「クラブレッツ」は、年に2回「プログラム」、年に4回「宇ノ気町総合型地域スポーツクラブ情報誌『Let's』」を発行している。「プログラム」には、主に「クラブレッツ」で行われている教室やセミナーの活動の紹介と参加申込書が掲載されている。「宇ノ気町総合型地域スポーツクラブ情報誌『Let's』」には、イベントの報告、近日開かれるセミナーやイベントの紹介、健康と運動に関する記事、レッツ会員の活躍、事務局からのお知らせなどが掲載されている。これらによって、宇ノ気町のスポーツ情報は増加したと考えられる。

6. スポーツクラブ

宇ノ気町のスポーツクラブ数には、「クラブレッツ」の設立前後で大きな変化は見られなかった。クラブ間の交流は「クラブレッツ」の設立以前は小学生の行くキャンプぐらいしかなかった。それが、「クラブレッツ」の開催するさまざまなイベントによってクラブ間で交流する機会が新たにできた。

V. 「クラブレッツ」会員の感じるスポーツ生活および地域の変化

1. スポーツ生活の変化

特に多くの「クラブレッツ」会員が「増えた」、「できるようになった」、「利用しやすくなった」と感じている項目は、「スポーツをする仲間」(55.1%)、「スポーツについて仲間と話す機会」(41.7%)、「クラブレッツについて話す機会」(40.9%)、「気軽なスポーツ参加」(38.8%)、「スポーツに参加する機会」(38.7%)、「スポーツについて話す機会」(35.7%)、「『する』スポーツに関する情報」(33.7%)、「施設の利用」(31.8%)、「テレビでスポーツを見る機会」(30.7%)だった。これらを図にしたのが図1である。「増えた」が「変わらない」の割合を上回ったのは、「スポーツをする仲間」だけであった。このことから、「クラブレッツ」の設立は会員の「スポーツをする仲間」を増やすことに特に大きな効果をもたらしたことがわかる。

「する」、「観る」、「視る」、「読む」、「支える」、「話す」スポーツそれぞれの項目を分析した。その結果、「クラブレッツ」の設立はクラブレッツ会員の「する」「観る」、「話す」スポーツに対して変化をもたらしたが、「観る」、「読む」、「支える」スポーツに対してはほとんど変化をもたらさなかったことが分かった。

「クラブレッツ」が設立されたことでスポーツ生活が豊かになったかをたずねた項目で、会員の約半数が「豊かになった」(49.7%)、「変わらない」(49.7%)と答えた。このことから、「クラブレッツ」設立は会員のスポーツ生活を豊かにしたことが分かった。スポーツ生活が「豊かになった」と感じている人はスポーツをする仲間が増えたこと、「話す」スポーツをする機会が増えたこと、そして施設の利用がしやすくなったことを評価していると考えられる。

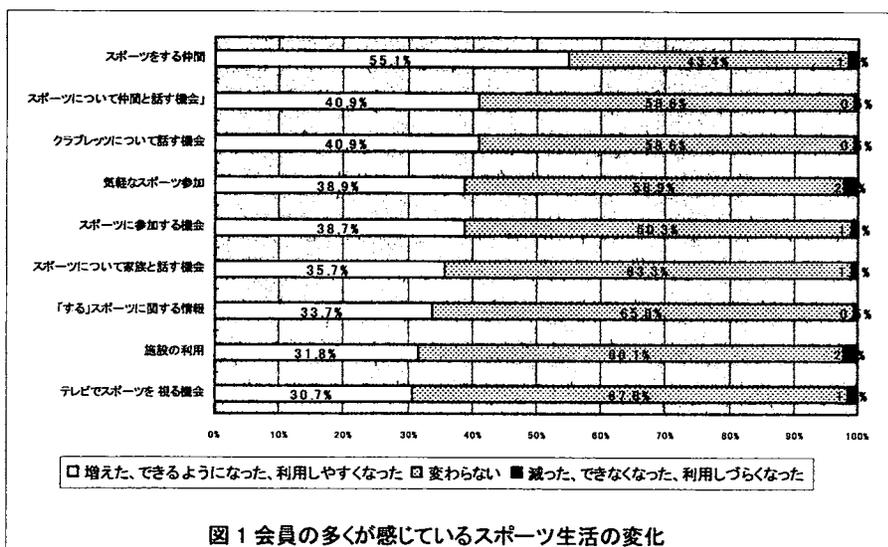


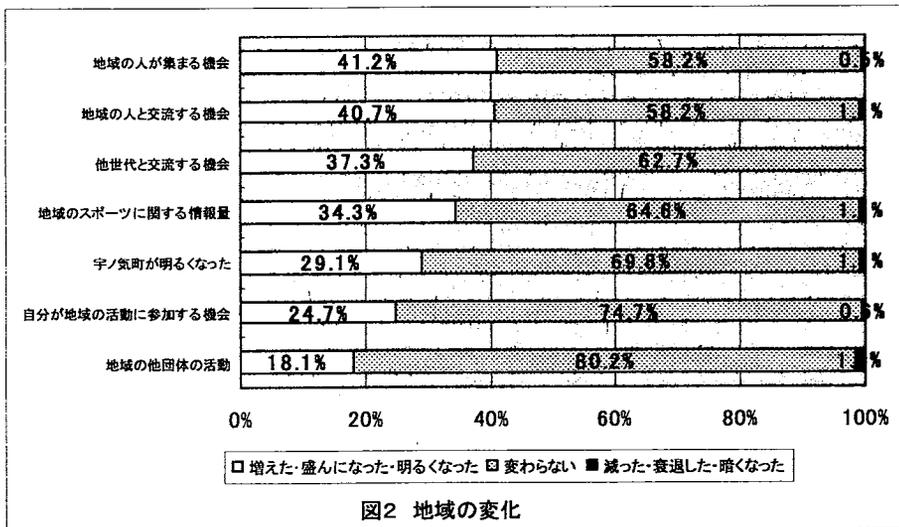
図1 会員の多くが感じているスポーツ生活の変化

2. 地域の変化

地域において、多くの「クラブレッツ」会員が「増えた」と感じている項目は、「地域の人が集まる機会」(41.2%)、「地域の人と交流する機会」(40.7%)、「他世代との交流」(37.3%)、「地域のスポーツに関する情報量」(34.7%)の4つであった。それ以外の項目も「増えた」と答えた人が20%ほどの人が「増えた」と感じている。これを図で表したのが図2である。「クラブレッツ」の設立は地域にもさまざまな効果をもたらしたと考えられる。

「クラブレッツ」がまちづくりに「貢献している」と答えた人が85.1%いた。「クラブレッツ」会員の多くが「クラブレッツ」がまちづくりに貢献していると感じていることが分かった。「クラブレッツ」が「まちづくりに貢献している」と感じている人には「まちづくりに貢献していない」と感じている人と比較して、「地域の人が集まる機会」や「地域の人と交流する機会」が「増えた」と感じている人、「地域に関する情報量」が「増えた」と答えた人、そして「宇ノ気町」が「明るくなった」と感じている人が多くいることが分かった。

このことから、「クラブレッツ」がまちづくりに貢献していると答えた人は、特に地域の人との交流が増えたこと、地域のスポーツ情報が増えたこと、そして宇ノ気町が明るくなったことを評価していると考えられる。



VI. 結論

総合型地域スポーツクラブ「クラブレッツ」が設立されたことによって、宇ノ気町のスポーツプログラム、スポーツイベント、スポーツ情報が増加した。

総合型地域スポーツクラブ「クラブレッツ」が設立されたことで、「クラブレッツ」会員はスポーツをする仲間が増え、気軽なスポーツ参加が可能になった。また「クラブレッツ」の設立は、「クラブレッツ会員」の「話す」スポーツ、「見る」スポーツの機会も増加させ、スポーツ生活を豊かにした。

<参考・引用文献>

- 杉山茂樹(1999. 2.25) FCバルセロナ「その大いなる全貌」『スポーツ・グラフィック ナンバー』文藝春秋 pp34-41
- 文部科学省(2001)『クラブづくりの4つのドア』
- 監修・江田昌佑 編集・財団法人 余暇開発センター(1998)『スポーツライフ白書』ぎょうせい
- 体育省体育局(2000)『富山県福野町 健康・スポーツに関する調査 報告書概要』
- 松田典(2003)「総合型地域スポーツクラブの設立に関する事例研究～宇ノ気町「クラブレッツ」の設立過程を中心に～」平成14年度金沢大学教育学部スポーツ科学過程卒業論文